

辺野古埋め立て土砂搬出反対ニュース



北九州連絡協議会《2015年10月5日・No26》

連絡先…森下宏人 090-9495-3902 八記久美子 080-1730-8895

全国連絡協議会第2回総会 in 長崎 10.3 具体的な行動に向け動きだす

■北九州から2人参加

10月3日(日)長崎において、全国連絡協議会の第2回総会が開かれました。北九州連絡協議会からは、事務局長の八記久美子・世話人の大谷正穂の2人が参加しました。

■1部の総会では

5月31日の設立会議は、賛同団体が増えつつある時で、仮の共同代表を決めただけでした。今回は、役員体制や署名の提出日を決めるなど、本格的なスタートの総会となりました。

■2部の学習会では

また2部では、北海道大学名誉教授・向井宏さん「辺野古・奄美・小豆島の海底から見えてくるもの」、ピースデポ元代表・湯浅一郎さん「沖縄の米軍基地をめぐる情勢について」の講演会が開かれ、参加者は、熱心に耳を傾けていました。



参加者全員が発言

署名 10月15日安倍首相宛に提出 手元にある署名至急事務局まで

今回の総会で、署名を10月15日に提出することを決めました。第1次提出ですので、署名の取り組みはこれからも続きますが、手元にある署名は至急、北九州連絡協議会の最寄りの役員か事務局までお届け下さい。



地元
のみなさん。
加の
参
を
する
報告
の

全国連絡協議会《役員体制》

○顧問

- 青木 敬介 (播磨灘を守る会)
- 向井 宏 (海の生き物を守る会・北海道大学名誉教授)
- 湯浅 一郎 (環瀬戸内会議・ピースデポ)

○共同代表

- 大津 幸夫 (自然と文化を守る奄美会議)
- 阿部 悦子 (環瀬戸内海会議)

○役員

- 生駒 研二 (熊本県連絡協議会)
- 歌野 敬 (辺野古の海を五島の土で埋めさせない住民の会)

○事務局

- 事務局長 松本 宣崇 (環瀬戸内海会議)
- 事務局次長 八記久美子 (北九州連絡協議会)
- 財 政 松本宣崇・歌野敬

○会計監査

- 五宝 (香川連絡協議会準備会)
- 北九州から一人



写真は、学習会の様子。西日本が中心とはいえ、各地から集まるのは大変です。15時から始まる総会をどう進めるのか、何を話し合うのかなど、最終的な準備を始めたのは、2時間前の13時からでした。



ただ今
12,158 筆

辺野古土砂反対

署名5万筆 首相提出へ

長崎で総会 全国協、12団体に増

【長崎＝金良孝矢】名護市辺野古の新基地建設で、沖縄防衛局が埋め立て用土砂を採取する予定地の市民団体などをつくる「辺野古土砂搬出反対」全国連絡協議会の第2回総会が3日、長崎県長崎市の県教育文化会館で開かれた。協議会は7団体から12団体に増え、新たに役員体制を確認した。3日現在で5万筆を超えた反対署名を15日に安倍晋三首相宛てに提出する予定だ。



辺野古土砂搬出反対 全国連絡協議会 第2回総会

総会には鹿児島県奄美大島や福岡県北九州市、熊本県天草市、長崎県五島列島、香川県などから9団体と一般人ら約20人が集まり、各採石地の状況や各地での取り組み、今後の活動などについて議論した。「一粒たりとも故郷の土を戦争に使わせない」をスローガンに、新たに共同代表に就任した環瀬戸内海会議の阿部悦子共同代表は「辺野古の埋め立ては絶対させない」と強調した。構成団体が街頭で署名運動や採石地の視察、業者へ土砂売却反対願い申し入れ、勉

強会や報告会を展開していることや、香川県と山口県で辺野古土砂搬出に反対する組織を立ち上げる動きがあることも報告された。

「五島列島 自然と文化の会」の江頭圭彦世話人は「五島の自然を愛している

新基地反対に追い風

解説

「辺野古土砂搬出反対」全国連絡協議会

の構成団体が7団体から12団体に増え、名護市辺野古の埋め立てに反対する動きはさらに広がりを見せる。政府は、全国に広がる新基地反対の声を真摯に受け止めるべきだ。

一方、翁長雄志知事は7日以降、前知事の辺野古埋め立て承認を取り消す考えだが、中谷元・防衛相は承認取り消し後も工事を継続する姿勢だ。総会では本体会事が始まって採石地から土砂が搬出される段階になった場合、沖縄のために何ができるか、との問いも上がった。「採石業者のための法」

し、辺野古は美しい場所だ。どちらの環境も破壊されることは望まない」と強調。「辺野古土砂搬出反対」熊本県連絡協議会の生駒研二事務局長は、日本ジオパークに認定されている地域で採石が行われていると指

（天津幸夫共同代表）との指摘が上がる採石法改正の請願や、本土の既存空港などに普天間飛行場の機能を受け入れる案を搬出地から出すことも提言された。

摘し、「大事な化石が新基地建設に使われるのは許せない」と怒りをあらわにした。15日は安倍首相宛てに署名を提出し、防衛省と環境省に採取地の外来種、環境影響の調査などについて申し入れる予定だ。

だがスローガンに掲げた「一粒たりとも」を実現させるための具体的な取り組みに関しては議論が着詰まらなかった。署名集め以外にも、採石業者に土砂搬出に協力しないよう求める働き掛けなど、今後の取り組みが注目される。（金良孝矢）

地元長崎の新聞社をはじめ、熊本や共同通信、そして、沖縄からも取材に來られていました。この記事は、琉球新報 10月4日付けの記事です。

